

大塚榮子名誉教授が日本学士院会員に選定
新渡戸カレッジ基礎・オナーズプログラム大学院教育コース2020年度メンターフォーラムを開催
水産科学研究所が東通村と連携協定を締結



全学ニュース

- 1 総長年頭挨拶
- 3 大塚榮子名誉教授が日本学士院会員に選定
- 5 アジア航測株式会社へ紺綬褒章を授与
- 6 北大フロンティア基金
- 8 令和2年度教員免許状更新講習を開催
- 9 高等教育研修センターにて研修会を開催
- 11 新渡戸カレッジ基礎・オナーズプログラム大学院教育コース2020年度メンターフォーラムを開催
- 12 令和2年度北海道留学生交流推進協議会総会をオンラインにて開催
- 13 2020年度DEMOLA（デモーラ）HOKKAIDO ファイナルデモンストレーションを開催
- 14 nano tech 2021に本学シーズを初出展
- 14 「北海道大学 新技術説明会」を開催
- 15 国際連携研究教育局（GI-CoRE）の3グローバルステーションが外部評価を実施
- 16 博士人材と企業の情報交換会 第44回「赤い糸会（赤い糸ONLINE）」を開催
- 17 「異分野meetup week 2020」を開催
- 18 北海道ダイバーシティ研究環境推進ネットワークシンポジウムを開催

部局ニュース

- 19 水産科学研究所が東通村と連携協定を締結
- 20 文学研究所FD「ハラスメントの防止等に関する研修」を開催
- 21 経済学部が札幌国税局長の特別講演会を開催



アジア航測株式会社へ紺綬褒章を授与



新渡戸カレッジ基礎・オナーズプログラム大学院教育コース2020年度メンターフォーラムを開催

- 22 地域経済経営ネットワーク研究センターシンポジウム「環境問題を解決するーナッジ政策の可能性」を開催
- 23 歯学研究所で「動物供養祭」を挙げる
- 23 令和2年度 薬学部成績優秀賞授与式を挙げる
- 24 工学系部局で「こころの健康セミナー」を開催
- 24 令和2年度第1回農学研究所FD研修会を開催
- 25 北海道大学病院で夜間想定防火訓練を実施
- 25 保健科学研究所公開講座「ようこそ！ヘルスサイエンスの世界へ」を開催

博士学位記授与 26

諸会議の開催状況 30

学内規定 30

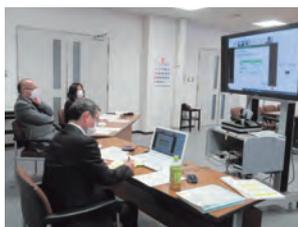
表敬訪問 32

人事 33

- 34 新任部局長等紹介
- 35 新任教授紹介

訃報

- 36 名誉教授 中根 文雄 氏
- 36 名誉教授 杉原 平樹 氏



令和2年度北海道留学生交流推進協議会総会をオンラインにて開催



nano tech 2021に本学シーズを初出展



異分野meetup week 2020を開催



水産科学研究所が東通村と連携協定を締結

New Norm 「新しい規範」と大学 -----西暦2021年-----

第20代総長 寶金 清博
ほうきん きよひろ



新年明けましておめでとうございます。コロナ禍の中、静かな年末年始を過ごされたことと思います。まずは、お元気で新年を迎え、教育・研究・運営の場に戻っていらしたことに御礼申し上げます。

間違いなく世界史に記録される特別な一年、西暦2021年、令和3年が始まりました。過去の年頭挨拶では、例年、その時々の総長は、北海道大学の教職員に対して、一年の大学の運営方針や目標、課題を述べております。ある種の「予定調和」的な予測が前提にあり、実際、今から振り返ると、過去の総長年頭挨拶は、その一年の結果から大きく外れていません。しかし、今年は、少し違った年頭挨拶とならざるを得ません。

私を含めてこの地球上の人類全体が、世界の行く末がこれほど不透明な新年を経験したことはありません。もちろん、未来は、一寸先さえ見えないのですから、365日を見通すことなど無理なことです。東日本大震災が起きた2011年も、その新年には、あの大きな災害と、その後、我が国が経験した未曾有の危機を誰も予想することはできませんでした。

しかし、そうした未来の不確定さとは全く別の意味で、この2021年は、不透明さが「確定」している点で、特別な新年を迎えています。現在の世界の指導者は、一人の例外もなく、このような経験値を持っていません。日々の報道を見ても明らかのように、指導者を含めて世界が困惑し狼狽しています。

敢えて近いとすれば、1945（昭和20）年、敗戦前後の日本人々は、その新年にあたって、先の一年を俯瞰できなかったのではないかと思います。私たちは、この2021年、そのような状況にあります。

世界や社会の中の主要な組織である「大学」も、この一年のスタートに当たって、私を含めて誰もが、ごく近い将来すら見通すことのできない不安を感じています。不透明さと言うよりも、ある種の方向感覚の喪失に近い不安があります。

私たちは、上下感覚、方向感覚、加速度感覚を失ったホワイトアウトのような中にいます。しかし、私たちは、「教育」と「研究」を提供する、社会にとって必要不可欠

な組織である大学の構成員です。方向感覚を喪失して茫然自失としていることは許されません。わずかな光が射し込む方向を鋭敏に捉え、勇気を持って目指さなければなりません。

深い濃霧の中で、ほんやりと確認できる一条の光、それは、DX（デジタルトランスフォーメーション）が加速し、私たちの日常が変わり、New Normal「新しい日常」が定着することだけです。

私は、New Normal「新しい日常」という、ある意味、感染防御に限定された小さな言葉より、もっと社会の根本的なルール全体の変革を意味するNew Norm「新しい規範」という言葉に意味があると考えます。まだ、明確な定義もなく、深い議論は進んでいませんが、単に新型コロナウイルス（COVID-19）の感染拡大を防ぎながら、社会活動を継続するためのものとは考えません。New Normは、DXや新しい日常の定着に必要な法律（場合によっては憲法などの根本的なルールまで含めて）、社会制度、経済ルール、家族や人間関係の在り方、医療、教育・・・などなど、社会全体の構成要素に及ぶ根源的な変化と考えます。それは、感染防御とは全く程遠い制度や組織や人間関係にも及ぶものです。

その中で、大学は「教育」「研究」を基軸として、第三の使命として「社会との連携」を目指すべきだと考えます。New Normが緩徐に、しかし確実に社会構造を変えるこれからの数年、あるいは十年余りの期間、大学はこれまでとは全く次元の違うレベルで「社会との連携」を目指す必要があります。大学が、孤高の象牙の塔としての存在でいられる「甘い夢」の時間がとくに終わったことを、私たちは2004年の国立大学の法人化以降、強く認識してきました。その中で、社会との連携をそれなりに強化してきたつもりです。

しかし、この2021年以降は、追加的、あるいは、付加的なミッションとしての「社会との連携」とは違う意味があると思います。New Norm「新しい規範」が社会の中で、多様な分野で、多様なスピードで、そして多様な深達度で広がっていく以上、その社会と連帯しなければ、本当に大学はその存在意義を失うと考えます。

New Norm「新しい規範」は、社会の様々な組織、制度から生まれてきます。もちろん、大学自身もNew Normの発信母体になり得ます。しかし、圧倒的にその主体は、社会に無数に存在する組織、制度、そして、個人であることは疑う余地がありません。そうした社会構成要素と連携することなしに、大学が新しい規範を生み出し、あるいは、それをけん引することは不可能です。ほんやりしていれば、おそらく大学は、Old Norm「旧規範」の中に歴史的遺産として置き去りにされます。歴史家など専門家からすれば、不適切な言葉かもしれませんが、「アンシャン・レジーム」としてその価値を失うことも危惧します。

昨年12月、私と新執行部は、2か月の助走期間を頂いた上で、第4期中期目標期間に向けての方針を示しました。

その中で、特に強調したのは、「社会との連携」でした。そして、今、大学に求められている「自律」には、その前提として「自立」があり、そのためには、「財務的自助能力」を格段に高める必要があることを強調しました。具体的には、「経営的収入」を増加させる必要があります。「経営的収入」は内部だけの閉じた空間からは決して生まれませんので、「財務的自助能力」には、「社会との連携」が必須です。

しかし、重ねて言いますが、「社会との連携」は、財務改善のために行うべきものではなく、New Norm「新しい規範」が胎動する社会との連携によって、大学自身がNew Normをけん引することにその本質があると考えます。

大学の本質である「教育」と「研究」においても、こうしたNew Normとの共鳴的關係が必要です。「教育」「研究」は確かに不変の真理追及を目指すものであり、New Normとは一線を画すべきものであることに反対はしませ

ん。しかし、社会を変える力の根源に「教育」と「研究」がある以上、社会を見ない「教育」も「研究」もあってはならないと思います。

New Normは、DXによる社会の変貌に対しても、その加速・減速の両方で関わっています。情報といった無形資本をコントロールする人々が、社会の富を総取りして、社会格差を危機的に広げる社会の仕組みに対して、私たち大学関係者は、適正な「社会との連携」によって、公共善に資するNew Normを目指すべきと考えます。このことも、昨年末の方針に示しました。

2019年度の法人評価で、本学は大変厳しい評価を受けました。大学ガバナンスにおいて「最低」の評価となりました。私のデスクの上には、その厳しい評価とメディアの記事がしばらく置かれました。大変に悔しい思いをしています。そして、大きな責任も感じています。

昨年末の方針で提示したように、New Normが浸透する中で、「社会との連携」をリードする「比類なき大学」を目指すことをこの数年の目標にしています。この不透明な2021年においても、総長・執行部・教育研究評議会・経営協議会が一丸となって、内部からも「社会」からも信頼される大学となることが、「再生」の前提条件です。

一步一步、皆様と議論と合意を重ねながら、New Norm「新しい規範」を作り上げる一年にしたいと思います。

最後になりますが、このコロナ禍の中、皆様、ご家族が健康を守り、歴史的な西暦2021年を無事に過ごされることを祈念して、年頭の挨拶とさせていただきます。

大塚榮子名誉教授が日本学士院会員に選定

本学の大塚榮子名誉教授（薬化学）が、令和2年12月14日（月）開催の日本学士院第1144回総会において、日本学士院会員（第2部（自然科学部門）第7分科（医学・薬学・歯学））として選定されました。

本学からは、平成29年選定の瀬川信久名誉教授（法律学・政治学）に続き、9人目となります。選定に際しての感想と功績等を紹介します。

（総務企画部広報課）



おおつか えいこ
大塚 榮子 氏

感想

このたびは、ご推薦いただき感謝申し上げます。1996年に日本学士院賞をいただいたことを思い起こしますが、その3年後には北海道大学を停年退職し、翌年から当時の工技院の北海道工業研究所で、次の独立行政法人化にむけてバイオ研究に役立つ部所に入りました。2004年には北海道大学が国立大学法人となり、当時の総長故中村陸男先生に監事の仕事を仰せつかり4年勤めました。

北大には医学部に薬学科が新設された1954年に入学して以来、学年進行に従って設立された大学院にも進学して、9年通いました。ウィスコンシン大学に留学してコロナ先生の遺伝暗号決定と遺伝子合成の研究に参加して以来、核酸の研究に50年以上携わったこととなります。大阪大学では池原先生の研究室で16年間、関西の先生方にもお世話になりました。1984年に北大に戻り、生まれた街に住んでいます。

数年前、生化学会北海道支部設立50年という記念の支部会で生物学の革命の時代を振り返りました。北大薬学でのがんの薬を目指す水野義久先生、池原森男先生の核酸研究は日本での始まりの一つとなりました。我が国の核酸系の呈味物質の産業は盛んでしたが、現在の医薬品産業製品が輸入超過であることは残念なことです。1968年にコロナ先生は遺伝暗号決定の業績でノーベル生理医学賞を共同受賞しましたが、核酸合成の寄与によるもので、その研究は活性のある遺伝子合成を可能とし、生物学に大きな変革をもたらしました。その後のゲノム解析においても合成遺伝子は不可欠なものです。現在は大変な速度で遺伝子の解析や改変が新しい技術や発見をもとに行われています。

大学は今、大変困難な状況になっています。大学が世の中から支持されるために、研究の成果を発信しなければならないと思います。新渡戸カレッジには卒業生フェローとして参加していますが、志の高い学生が育つように少しでもお役にたてたらと考えています。

功績等

大塚榮子氏は、核酸の化学合成技術を基盤とし、核酸化学・遺伝子工学・分子生物学の分野において、顕著な業績を挙げられてきました。多くの業績の中でも特に重要な研究成果を以下に紹介します。

1. RNAの化学合成とデオキシノシンプローブの開発：リン酸基や2'-水酸基の保護法を開発し、当時困難であったRNAの化学合成法において多大な貢献をされました。また、デオキシノシンプローブの開発により未知配列を含む遺伝子の塩基配列の決定を可能にし、遺伝子解析にも貢献されました。
2. 修飾核酸の合成と核酸工学への応用：ヒトの生体内にも存在する2'-O-メチルRNAの化学合成を達成し、それを利用したRNAの配列特異的切断技術を世界に先駆けて開発されました。これらの技術は、核酸工学のみならず現在の核酸医薬の分野において国内外で用いられており、特筆すべき成果の一つとなっています。
3. RNA酵素（リボザイム）の研究：化学合成したRNAから構築したリボザイムに活性があることを示すとともに、リボザイムによるRNAの切断反応機構の解明から活性型癌遺伝子の特異的発現抑制に関する研究を進められました。基礎研究から応用研究まで幅広く研究を展開させ、触媒活性を有するRNAについて先駆的成果を挙げられました。
4. 損傷DNAの合成と遺伝子変異機構の解明：DNA中に生ずる損傷DNAを化学合成し、損傷DNAから遺伝子変異に至る分子機構を解明されました。また、損傷DNAが癌遺伝子活性化の引金になることを明らかにされ、これらは遺伝情報の源であるDNAの化学的修飾が生物に与える影響を明らかにした重要な研究成果となっています。
5. 合成遺伝子を用いた蛋白質の産生とその機能解明：化学合成したDNA断片を連結して合成遺伝子を構築し、そこから作製した蛋白質を用いて幾つかの蛋白質の重要な機能を解明されました。特に癌遺伝子産物

ras蛋白質の活性型-不活性型の構造変化と、その構造変化と癌化との関連性について重要な知見を与えました。

これらの研究成果は、平成元年高松宮妃癌研究基金創立二十周年記念特別学術賞、平成4年秋山記念生命科学財団振興財団賞、平成6年日本薬学会学術賞、平成8年日本学士院賞など複数の受賞につながっています。核酸の化学合成技術という基礎的研究を広範な研究領域に展開され、それぞれで先駆的な成果を挙げられ、現在の合成生物学や医薬品開発の基盤になっています。

略 歴

- 生 年 月 日 昭和11年1月13日
- 昭和33年3月 北海道大学医学部薬学科卒業
- 35年3月 北海道大学大学院薬学研究科修士課程修了
- 38年3月 北海道大学大学院薬学研究科博士課程修了
- 38年3月 薬学博士（北海道大学）
- 38年4月 ウィスコンシン大学酵素研究所研究員
- 41年10月 北海道大学薬学部助教授
- 43年5月 大阪大学薬学部講師
- 51年3月 大阪大学薬学部助教授
- 59年2月 北海道大学薬学部教授
- 平成3年4月 北海道大学評議員併任
- 10年4月 } 北海道大学大学院薬学研究科教授
- 11年3月 }
- 11年4月 北海道大学名誉教授
- 12年7月 通商産業省工業技術院北海道工業技術研究所主任研究官
- 13年1月 経済産業省産業技術総合研究所北海道工業技術研究所主任研究官
- 13年4月 } 独立行政法人産業技術総合研究所フェロー
- 16年3月 }
- 16年4月 } 国立大学法人北海道大学監事
- 20年3月 }
- 17年6月 独立行政法人産業技術総合研究所名誉フェロー
- 25年4月 国立大学法人北海道大学新渡戸カレッジフェロー

(薬学研究院)

アジア航測株式会社に紺綬褒章を授与



左から、アジア航測株式会社 社会インフラマネジメント事業部副事業部長 佐野寿聡様、代表取締役社長 小川紀一郎様、寶金総長、菅原理事

北大フロンティア基金に多額の寄附をされたアジア航測株式会社へ紺綬褒章が授与されました。

アジア航測株式会社は、航空機・人工衛星等を利用し、地形をはじめとした空間情報の収集・解析から活用提案まで、一貫したコンサルティングサービスの提供を行う企業です。

近年の自然災害が複雑化していることから、その実態・対応策を研究し、また対策を実践することが重要として、本学の広域複合災害研究センター

設立趣旨をご理解いただき、北大フロンティア基金の特定資金として、学部等支援（広域複合災害研究センター）に寄附をいただきました。

伝達式は、12月10日（木）に北海道大学東京オフィスにて行われ、本学からは寶金清博総長、菅原修孝理事が参加しました。当日はアジア航測株式会社の技術について説明をいただいたのち、寶金総長から褒状が伝達されました。

※ 紺綬褒章とは、公益のために私財（法人の場合1,000万円以上）を寄附した者を対象に、表彰されるべき事績の生じた都度、各府省等の推薦に基づき審査され、授与されるものです。

国、地方公共団体又は公益団体（公益を目的とし、法人格を有し、公益の増進に著しく寄与する事業を行う団体であって、当該団体に関係の深い府省等の申請に基づき賞勲局が認定した団体）に対する寄附が授与の対象となります。

（総務企画部広報課）

北大フロンティア基金

北大フロンティア基金は、本学の創基130年を機に、教育研究の一層の充実を図り、これまで以上に自主性・自立性を発揮して大学としての使命を果たすため、平成18年10月に創設しました。

奨学金制度の充実や留学生への支援などの学生支援を中心に、研究支援、学部等支援など様々な事業を行っており、期限を付さない、息の長い募金活動をする事としています。

皆様には基金の趣旨にご賛同いただき、ご協力をお願いします。

北大フロンティア基金情報
基金累計額 (12月31日現在)

28,764件 5,315,423,572円

12月のご寄附状況

法人等24社、個人751名の方々から28,912,100円のご寄附を賜りました。

そのご厚志に対しまして感謝を申し上げますとともに、同意をいただいている方々のご芳名、銘板の掲示、感謝状の贈呈について掲載させていただきます。(五十音別・敬称略)

寄附者ご芳名 (法人等)

アボットジャパン合同会社、いしだ歯科医院、伊藤組土建株式会社、一般社団法人恵庭市医師会、一般社団法人江別医師会、かど歯科医院、北見赤十字病院、教職員共済生活協同組合、社会医療法人恵佑会 札幌病院、医療法人社団 廣仁会、独立行政法人国立病院機構 函館病院、市立千歳市民病院、認定こども園 新琴似幼稚園、砂川市立病院、一般社団法人空知医師会、ニューオータニイン札幌、医療法人喬成会 花川病院、社会医療法人北楡会 札幌北楡病院、公益財団法人北海道医療団 帯広第一病院、社会福祉法人北海道社会事業協会 小樽病院、公益社団法人室蘭市医師会

寄附者ご芳名 (個人)

SarwarAKMGolam	合川 正幸	相川 忠弘	会沢 恒	会田 和男	安彦 和之	阿部 啓子	五十嵐三津雄
池田 輝明	池田 幸良	石井 健太	石井 哲夫	泉 俊明	井戸川静夫	井原 博	今川かおる
入澤 秀次	岩下 明裕	岩谷 将	上江洲安宏	植松 宏志	白井 茂雄	内田 緯子	縁記 和也
遠藤 公憲	大谷 恭久	大原 正範	小川 俊弘	奥 聡	奥田 英信	小熊 豊	小倉 滋明
小田原一史	角田 敏男	梶原 達也	片岡るり子	片野 純子	加地 浩	勝山 真吉	加藤 元
加藤 秀弘	金川 眞行	金子豊三郎	神垣 光徳	亀澤 一昭	狩野 吉康	河谷真知子	川原ひとみ
河本 充司	菊地 英毅	北村 綾子	木下 久代	窪田 開拓	倉田 博司	栗田 順三	栗田 隆
五島 淳	小高 大輔	小西 紗希	木幡 周一	近 祐次郎	斉藤あすか	齊藤 晋	斉藤 久
坂本 大介	佐久間一郎	佐々木亮子	佐藤 明子	佐野 公昭	澤田 及子	三升畑元基	三分一博基
塩野 俊和	塩満 正哉	志済 聡子	柴田 祐次	澁谷 正人	清水 研一	榛葉 貴博	菅原 新也
杉本 千尋	鈴木 貴之	須藤 武	須場 孝浩	瀬川 章	関戸 徹	関根 猛	瀬田石榴枝子
瀬名波栄潤	竹藪 公洋	橘 孝則	田中 和裕	田中 一哉	田中 敬基	丹治 道彦	塚田 光政
辻 智子	津田 栄継	土家 琢磨	土屋 努	土屋 裕	経田 剛	寺澤 陸	照屋 均
得地 令郎	戸田 純子	豊田 威信	長井 桂	永井 典久	中塚 英俊	中野 亮司	中町 昭道
中村 徳晴	中村仁志夫	西田 実弘	西村 和信	西村 吾朗	西村 成子	仁平さおり	野川 聡
八谷 光芳	花田 秀一	林 幸一	原 伸行	久田 雅樹	久村 正也	平井 喜郎	平瀬 隆弘
福士 幸治	福田 文治	福永 悟郎	藤岡 玲子	藤川幾久子	藤田 昌子	藤野 通宏	二村 孝文
船津 保浩	堀江 亮介	本間紀久雄	本間 昭一	前田 博	牧村 士郎	松浦代志文	松家 治道
松崎 道幸	松田 健一	松田 康子	松原 謙一	松本伊智朗	松元 和幸	見谷 薫史	三土 京子
宮崎 隆志	宮田 信幸	宮本 宏	村上 明	村上 泰一	村上 幸夫	諸橋 大樹	安田 恵也

山形 剛	山口 悦郎	山下 裕久	山田 和奈	山田 千鶴	山田 剛	山田 雄三	山本 睦
湯浅 資之	横井 成尚	横井 敏郎	横田 弘	横山 考	吉田 幸二	吉田 広志	吉本久美子
吉本 淳一	米山由美子	鷲見 功					

銘板の掲示（20万円以上のご寄附）

（法 人）

アボットジャパン合同会社, 社会医療法人恵佑会 札幌病院, 認定こども園 新琴似幼稚園

（個 人）

石井 健太, 遠藤 公憲, 狩野 吉康, 栗田 隆, 塩満 正哉, 土屋 努, 林 幸一, 松家 治道, 諸橋 大樹

感謝状の贈呈



三井住友信託銀行株式会社 様（令和2年12月1日）



アジア航測株式会社 様（令和2年12月10日）



栄研化学株式会社 様（令和2年12月10日）



杉江 和男 様（令和2年12月10日）



石山 喬 様（令和2年12月11日）



株式会社日立製作所 様（令和2年12月17日）

ご寄附のお申し込み方法

北大フロンティア基金ホームページの「教職員の方によるご寄附について」にアクセスして下さい。
<https://www.hokudai.ac.jp/fund/howto-staff.html>

①給与からの引き落とし

ホームページから「北大フロンティア基金申込書（兼・給与口座からの引落依頼書）」をダウンロードし、ご記入の上、基金事務室に提出してください。

②郵便局または銀行への振り込み

基金事務室にご連絡ください。払込取扱票をお送りします。

③現金でのご寄附

寄附申込書に現金を添えて、基金事務室にご持参ください。

申込書は、ホームページから「北大フロンティア基金申込書（教職員現金用）」をダウンロードしてご記入いただくか、基金事務室にもご用意していますので、基金事務室にお越しただいてからご記入いただくことも可能です。

④クレジットカード決済・コンビニ決済でのご寄附

北大フロンティア基金ホームページ

(<https://www.hokudai.ac.jp/cgi-bin/fund/bin/xRegist.cgi>) の寄附申し込みフォームから申込をお願いします。

北大フロンティア基金に関する問い合わせ 基金事務室（事務局・学内電話 2017）

（総務企画部広報課）

令和2年度教員免許状更新講習を開催

12月5日（土）から12月13日（日）にかけて、今年度の教員免許状更新講習を開催しました。

現在教員免許を持っている現職教員等は、10年ごとに設定される修了確認期限前の2年間に、大学などが開設する30時間の教員免許状更新講習（必修領域・選択必修領域においてはそれぞれ6時間、選択領域においては18時間）を受講・修了し、免許管理者（都道府県教育委員会）に申請する必要があります。本講習制度は、その時々で教員として必要な資質能力が保持されるよう定期的に最新の知識技能を身に付けることで、教員が自信と誇りを持って教壇に立ち、社会の尊敬と信頼を得ることを目指すために、平成21年4月1日に導入されました。

平成21年度以降、本学では毎年講習

を実施しており、今年度も様々な学校種の教員等を対象として、全4講習を開催しました。新型コロナウイルス感染症の影響により、一部の講習の中止や、開催時期の変更があり、例年に比べ、規模を縮小しての開催となりました。また、開催した4講習においては、新型コロナウイルス感染症の対策として、講義室の換気やマスクの着用、間隔をあけた座席配置等を行いました。

今年度実施した講習には、必修領域の受講者数25名、選択必修領域の受講者数31名、選択領域の受講者数52名、合計で108名の方々の参加がありました。

講習では、担当講師からのオリエンテーションの後、各テーマに関する講義や実習が行われ、講習のまとめと

して修了認定試験を行いました。講習後に寄せられたアンケートでは、「生徒の見方や接し方について改めて考えることができました」、「これまでの経験では不足していた知識を得ることができました」などの感想が寄せられました。また、幅広い学校種の教員等を対象とした講習の受講者からは、「勤務している学校種向けの研修では学べない年齢の子ども達の発達についても学ぶことができ、視野が広がりました」という感想も寄せられ、受講者にとって有意義な講習となったことがうかがえました。

なお、今年度開催した講習は以下のとおりです。

（学務部学務企画課）

領域	講習名	開設日	講習時間	定員	受講者数
必修	教育の今日的課題とその改革の方途	12月12日（土）	6時間	104人	25人
選択必修	子ども・家族理解の視点と学校の組織的対応	12月5日（土）	6時間	104人	31人
選択	配慮を要する子ども達への理解と対応	12月13日（日）	6時間	104人	49人
	理系の応用技術：工学の世界	12月13日（日）	6時間	50人	3人

高等教育研修センターにて研修会を開催

高等教育推進機構高等教育研修センターでは、11～12月に以下のとおり研修会を開催しました。

研修名：英語によるビジネスコミュニケーション研修 参加者：10名

開催日：令和2年11月30日（月）

開催方式：Zoomセミナー

受講対象者：高等教育機関に所属する教職員

開催概要：本研修は、学内の留学生や外国人教員と仕事上のやり取りを簡単な英語を使って行えるようになることを目的として開催した。必要最低限のビジネス英会話力を身につけたい人を対象に、外国人講師によりすべて英語で行われた。

研修名：ワンランク上のオンライン授業実践講習会 参加者：13名

開催日：令和2年12月5日（土）

開催方式：対面研修（情報教育館3階スタジオ型研修室）

受講対象者：教育機関関係者

開催概要：本研修では、ワンランク上のオンライン授業を実践するために必要な機材やツールを紹介し、実際に試していただくことを目的として開催した。オンデマンド教材の作成方法、Zoomでのライブ授業をより快適にするための機材など、実際に手に取って試していただいた。



ワンランク上のオンライン授業実践講習会

研修名：オンライン授業のためのシラバス作成研修 参加者：10名

開催日：令和2年12月5日（土）

開催方式：対面研修（情報教育館3階スタジオ型研修室）+ Zoomセミナー

受講対象者：教育機関関係者

開催概要：本研修では、シラバスをブラッシュアップすることを目的として開催した。講義部分は事前視聴いただき、ライブ研修では参加者同士や講師からのフィードバック、ディスカッションを中心に行った。

研修名：ルーブリック評価作成ワークショップ 参加者：13名

開催日：令和2年12月12日（土）

開催方式：対面研修（情報教育館3階スタジオ型研修室）+Zoomセミナー

受講対象者：教育機関関係者

開催概要：本ワークショップでは、ルーブリック評価導入のきっかけとすることを目的として開催した。オンデマンド教材による事前学習と当日のフィードバックを中心としたライブ研修でルーブリック評価の作成法、活用法などの基礎を学んだ。

研修名：授業がスムーズに進むオンラインコミュニケーション研修 参加者：42名

開催日：令和2年12月12日（土）

開催方式：対面研修（情報教育館3階スタジオ型研修室）+Zoomセミナー

受講対象者：教育機関関係者

開催概要：本研修ではオンライン授業におけるコミュニケーションスキルを身に付けることを目的として開催した。元アナウンサーの方を講師にお招きし、どういった準備や指示、話し方をすれば効果的に進められる授業づくりができるかを学んだ。



授業がスムーズに進むオンラインコミュニケーション研修

（高等教育推進機構）

新渡戸カレッジ基礎・オナーズプログラム大学院教育コース 2020年度メンターフォーラムを開催

12月12日（土）、2020年度メンターフォーラムをオンラインにて開催しました。

新渡戸カレッジの大学院教育コースでは、社会の多様な分野で活躍する方々にメンターに就任いただき、新渡戸カレッジ生のキャリア意識の醸成、社会的視野の広がり、及び人的ネットワークの形成にご協力いただいています。

メンターフォーラムは、新渡戸カレッジ生が大学院修了後のキャリアを念頭に、カレッジ生自身にとって身近なロールモデルであるメンターとの交流を通じて、自身のキャリアパスをより具体的に考える機会として、例年は夏と冬の年2回の開催としていますが、

本年度は新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から、冬のみオンライン開催となりました。

当日は、第1部として講演会を行い、『キャリアパスとキャリアチェンジから得たこと』のテーマで、6名のメンター及び1名のゲストスピーカーに、ご自身のキャリアや実社会における経験に基づくアドバイス等について英語でご講演いただきました。新渡戸カレッジ生は、多様な分野でグローバルに活躍する先輩たちの話に刺激を受け、熱心に耳を傾けていました。

続く第2部では、新渡戸カレッジ生が各メンター等に自由に質問し対話を行う交流会として実施しました。新渡戸カレッジ生は大学における研究活動

及び今後本格化する就職活動等について積極的に質問し、アドバイスを得ることができました。

本メンターフォーラムを通して、新渡戸カレッジ生は、大学院生活をどのような姿勢で学修・研究に取り組み、将来のキャリアデザインに繋げていくことができるか等について、貴重な洞察を得ることができたようです。

2020年度メンターフォーラムは、6名のメンターを含む7名の方々のご協力を得て実施しました。ご協力いただきました皆様に改めて御礼申し上げます。

(学務部教育推進課)



大学院メンターと新渡戸カレッジ生

令和2年度北海道留学生交流推進協議会総会をオンラインにて開催

令和2年度北海道留学生交流推進協議会総会をWeb会議システム（Cisco Webex）にて12月18日（金）に開催しました。会議には、北海道内の大学、短期大学、高等専門学校、地方公共団体、留学生支援団体から39名が参加しました。

はじめに、同協議会運営委員会委員長である山口淳二理事・副学長から「平成元年の協議会発足当初400名だった北海道の留学生は令和元年度には3,800名を超えており、今後、更なる受け入れ増加を目指す中で、益々協力関係を密にして留学生交流を支援していく必要があることから、これらの問題を議論する場として本協議会は大きな意義を持っている。」と開会の挨拶

がありました。

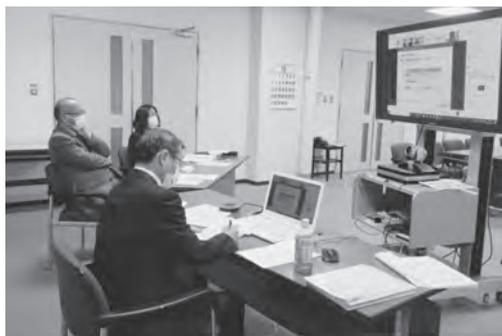
引き続き、ラフェイ、ミシェル ケイ総長補佐・文学研究院 准教授により「留学生受入における学内外との連携及び取組について」と題した講演で、コロナ禍における留学生及びオンライン授業の状況、学生が抱える不安やこれからの課題等について説明がありました。また、外国人相談窓口を設けている北海道国際交流・協力総合センター（HIECC）及び札幌国際プラザから、相談状況について情報共有がありました。

各団体からの報告事項等として、医療通訳SEMIさっぽろ及び札幌国際大学から新型コロナウイルスによる学生への影響に関し、支援内容を含む情報

を共有していただきました。事務局からは、令和元年11月現在の北海道内の大学、短期大学、高等専門学校への留学生の在籍状況、留学生向けの奨学金の紹介、各機関による事業、行事等実施状況等について説明を行いました。

会議を通じて、各受入機関、自治体、国際交流団体の活動が新型コロナウイルスによって影響を受けつつも、各機関・団体において試行錯誤の上、様々な取り組みを実施していることを共有する貴重な機会となりました。今後も、留学生受入機関と関係団体との協力体制が一層強化されることが期待されます。

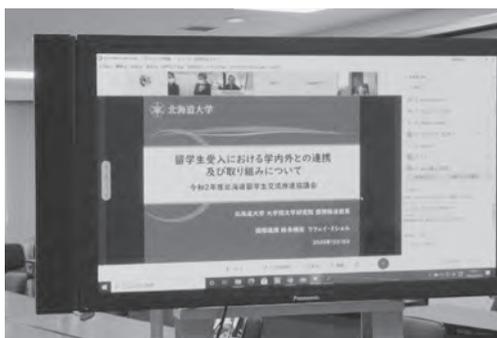
（学務部学生支援課）



オンライン総会の様子



山口理事・副学長による開会の挨拶



ラフェイ総長補佐・文学研究院准教授による講演の様子

2020年度DEMOLA（デモラ）HOKKAIDO ファイナルデモンストレーションを開催

12月5日（土）、2020年度のDEMOLA（デモラ）HOKKAIDOの最終発表の場であるファイナルデモンストレーションを開催しました。DEMOLAはフィンランド生まれの産官学連携イノベーション創出プラットフォームであり、世界16カ国、60以上の大学が参加している国際的な企業課題解決ネットワークです。学生と企業担当者が一緒にチームを組み、企業のリアルな課題解決に取り組むのが特徴です。

DEMOLAは、文部科学省の次世代のアントレプレナーを育成するためのEDGE-NEXT事業の一環として開催されており、今回は札幌市のSTARTUP

CITY SAPPOROの連携プログラムとしても実施しました。

今年度は、オンラインツールを活用して、フルオンラインでの開催を実施したことから、今まで地理的に参加が難しかった本学函館キャンパスの学生や、東京や海外の他大学の学生も含めて40名もの学生がプログラムに参加しました。学生たちは、異なる10の大学から集まり、企業はSCSK北海道株式会社、エア・ウォーター北海道株式会社、株式会社モエホールディングス、株式会社北海道インテック、そして株式会社クレタの5社が参加くださいました。個性あふれるメンバーの多様性

が集合したチーム編成となり、様々なイノベーションアイデアが生まれました。

（詳細はこちら<https://demolahokkaido.wixsite.com/hokudai>）

現在、2021年度の参加企業の募集を行っておりますので、ご興味のある方は産学・地域協働推進機構（demola@mcip.hokudai.ac.jp）までお問い合わせください。

ぜひ、学生と一緒にイノベーションアイデアを生み出す共同創造の場を体感しませんか。

（産学・地域協働推進機構）



集合写真



オンラインディスカッションの様子1



オンラインディスカッションの様子2

nano tech 2021に本学シーズを初出展

産学・地域協働推進機構は、12月9日（水）～11日（金）に東京ビッグサイトで開催されたnano tech 2021に初めて出展しました。

nano tech 2021は、来場者の約半数がR&D（Research & Development）関係者であり、研究開発に直接かかわる方々へアピールすることができ、新規市場の開拓や新規事業のパートナー探しに最適な展示会です。

本学のブースでは

1. 「光波長変換フィルム：太陽電池の高効率化」工学研究院 応用化学部門 長谷川靖哉教授
2. 「体内の異常を観察できる、色の変化を利用した光音響イメージン

グ剤」薬学研究院 生体分析化学研究室 小川美香教授

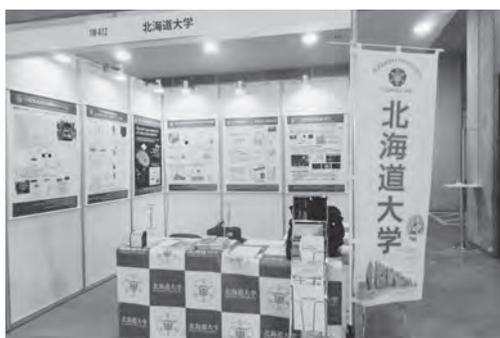
3. 「小型蛍光相互相関検出システム」先端生命研究院 細胞機能科学研究室 金城政孝教授
4. 「強結合を利用した全可視光応答型光触媒」電子科学研究所 グリーンフォトンクス研究分野 三澤弘明教授
5. 「電子トラップ密度解析によるナノ材料の同定」触媒科学研究所 光触媒科学研究部門 大谷文章教授
6. 「高速計測診断装置の開発」電子科学研究所 附属社会創造数学研究センター データ数理研究分野

小松崎民樹教授の6つのnano tech関連シーズを展示しました。

コロナ禍の影響で今年度の全来場者数は、10,615人と前年の1/4程度でしたが、本学ブースでは約70名の方との名刺交換と共に共同研究等に関する具体的な相談が行われました。

産学・地域協働推進機構では、今後も民間企業等との様々なマッチングの企画を行いながら、産学連携活動を推進します。

（産学・地域協働推進機構）



北海道大学ブースの様子



来場者に説明する長谷川教授（右）

「北海道大学 新技術説明会」を開催

11月19日（木）に『北海道大学 新技術説明会』を開催しました。本イベントは科学技術振興機構（JST）と本学の主催によるもので、本学が有する技術シーズ（特許）を紹介し、企業とのマッチングを図ることが目的です。本学からは工学研究院の田坂裕司准教授、工学研究院の佐藤昌宏助教、情報

科学研究院の橋本 守教授、電子科学研究所/創成研究機構グローバルファシリティセンター（兼務）の武井将志技術専門職員、医学研究院の宮本秀一客員研究員より、シーズの紹介を行いました。今年度は全てオンラインでの開催となりましたが、70名から100名ほどの参加者があり、18社から問い合わせ

を頂きました。

参考URL

https://shingi.jst.go.jp/list/hokudai/2020_hokudai.html

（産学・地域協働推進機構）

国際連携研究教育局 (GI-CoRE) の3グローバルステーションが外部評価を実施

国際連携研究教育局 (GI-CoRE) [※] では、グローバルステーション (GS) ごとに、設置から5年以内に自己点検及び外部評価を実施することとしています。外部評価は3名の学外有識者からなる外部評価委員会に委ねています。

ソフトマターGS、ビッグデータ・サイバーセキュリティGS、北極域研究GSは、今年度が設置後5年目であることから、令和2年春から秋にかけて自己点検評価を実施するとともに、外部評価委員による活動調査、教員へのヒアリング等を含むオンラインによる実地調査を受検し、このたび、以下のとおり評価結果がまとまりました。

当初の予定では、外部評価委員が関係のGSを訪問し施設見学や関係教員とのディスカッション等を予定してい

ましたが、新型コロナウイルスの感染拡大防止策のために中止となり、代わりに書面とオンラインによる実地調査となりました。

今回の評価結果及びこれを踏まえた各GSの将来構想等については、12月9日(水)開催のGI-CoRE運営委員会において、各GS長から報告がありました。これに対し寶金清博総長 (GI-CoRE局長) からは、今後更なる研究・教育の発展につながることを期待している旨が述べられました。

今回の外部評価結果並びに評価委員からの意見を踏まえ、関係の3GSは、GI-CoREにおける先進的な取組をさらに進展させ、世界の課題解決の貢献につながる国際連携研究・教育の継承と一層の展開に向け、活動を続けていく予定です。

※国際連携研究教育局 (GI-CoRE)

本学の強みや特色を活かした国際連携研究・教育の推進と部局が独自に進める国際連携研究・教育の支援を目的として、世界トップレベルの教員を国内外及び学内から結集した総長直轄の教員組織。平成26年度の開設以降、現在までに、量子医理工学 (平成26年度開設、令和元年度医学研究院へ定着化)、人獣共通感染症 (同、令和元年度人獣共通感染症リサーチセンターへ定着化)、食水土資源 (平成27年度開設、令和元年度農学研究院へ定着化)、ソフトマター (平成28年度開設)、ビッグデータ・サイバーセキュリティ (同)、北極域研究 (同)、バイオサーフィス創薬 (令和元年度開設) の7つのグローバルステーション (研究拠点) が設置され、それぞれの分野で国際連携研究・教育を推進している。

(国際連携研究教育局)

GS名 (オンライン実地調査実施日)	総合評価 (S~Dの5段階評価)
ソフトマターGS (9月1日(火))	卓越している (S)
ビッグデータ・サイバーセキュリティGS (7月7日(火))	非常に優れている (A)
北極域研究GS (10月20日(火)~21日(水))	非常に優れている (A)



9月1日(火)実施のソフトマターGS外部評価オンライン実地調査の参加者 (スクリーンショット)



7月7日(火)実施のビッグデータ・サイバーセキュリティGS外部評価オンライン実地調査の参加者 (スクリーンショット)



10月20日(火)~21日(水)実施の北極域研究GS外部評価オンライン実地調査の参加者 (スクリーンショット)

博士人材と企業の情報交換会 第44回「赤い糸会（赤い糸ONLINE）」を開催

人材育成本部のS-cubicでは、11月24日（火）～12月4日（金）オンラインにて本年度第2回（通算第44回）「赤い糸会（赤い糸ONLINE）」を開催しました。

本会は、博士人材を求める企業と自身のキャリアの可能性を広げたい博士人材が専門分野のみならず、専門分野を超えた交流を行い、博士人材の活躍フィールドの拡大を図ることを目的としています。

今回、参加した企業は37社、博士人材は39名となりました。博士人材の内訳は、本学の博士人材が10部局36名、平成26年度末より採択された科学技術人材育成のコンソーシアムの構築事業による連携大学からの博士人材が3名（立命館大学1名、筑波大学1名、新潟大学1名）です。

本会は従来、企業と博士人材が対面で交流する場でしたが、今年度は、この長年の経験から得られた異分野交流や博士人材の質の高いプレゼンテーションをオンラインでも実施できるよう

工夫しています。例えば、博士人材には、プレゼンテーション演習を受講し講師から動画作成の許可を得て自身の紹介動画を作成しており、また、自分の専門とは一見離れた企業とも交流するように促しています。

赤い糸ONLINEの専用サイトでは、このような指導を受けて作成した博士人材の紹介動画や企業の動画を双方が視聴、閲覧およびチャットにより交流し、その後Zoomにて博士人材が企業ブースを訪問しての個別情報交換等が活発に行なわれました。

開催後、企業からは「実際に会えないのは寂しいなと思っていましたが、Zoomでも人の雰囲気はしっかり伝わってきて、とても有意義な交流ができました」「直接弊社業務に関連のある分野以外の様々な研究分野の方々にお会いできました」との声をいただくことができました。

また、参加した博士人材からは「事前に思い描いていた以上に実りある機会となりました。正直、参加する前ま

では話半分で聞いていたのですが、“意外な企業と交流することができ”というのは本当なんだなと実感しました」「赤い糸会ONLINEは非常に良い機会です！様々な企業と出会うことができ、情報交換が可能です」といった嬉しい声も聞かれました。

人材育成本部では赤い糸会のほか、Advanced COSA、個別キャリア相談、キャリアパス多様化支援セミナー、キャリアマネジメントセミナー、企業での長期インターンシップや、コンソーシアムの連携大学である東北大学や名古屋大学等が運営するプログラムの活用などによって、博士人材の実践力を高めております。今後ともご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

ご興味のある方は、人材育成本部のホームページをご覧ください。

<http://www2.synfoster.hokudai.ac.jp>

（人材育成本部）



吉原拓也特任教授の趣旨説明



Zoomによる個別情報交換の説明



博士人材と企業の個別情報交換

「異分野meetup week 2020」を開催

本学は、2019年度科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ牽引型」に採択され、共同実施機関（室蘭工業大学、帯広畜産大学、北見工業大学、株式会社アミノアップ、日東電工株式会社）と連携して「北海道ダイバーシティ研究環境推進ネットワーク（KNIT）」を創設し、ダイバーシティの推進による科学・産業技術の振興と地域活性化を目指して取り組んでいます。

その一環として、11月30日（月）～12月4日（金）に、「異分野meetup week 2020」をオンラインで実施しました。異分野の研究者との交流を促進し、新たな共同研究の芽を育むことを目指すイベントで、参加者はそれぞれノボリ型ポスターテンプレートに自分の研究紹介をまとめ、接点や関心がありそうな異分野の研究者にアピールしました。

オンラインによるポスターセッションでは、91件のポスター発表が行われ、ポスターセッションWebページへのページビュー（PV）は3,562となり、参加者の活発な交流がありました。

また、期間中は合計6件のオンラインセミナー（北海道大学主催3件・室蘭工業大学主催1件・帯広畜産大学主催1件・北見工業大学主催1件）および3件の研究者コミュニケーションサロンが開催され、延べ約200名の参加がありました。

イベント終了後のアンケートでは、「異分野の研究者の方々と意見交換を通して自身の研究にも新たなヒントをいただくことができ、大変有意義な機会となりました」「ポスター発表は大変興味深い体験でした。オンラインでの開催にかなりの有用性を感じ、参加して良かったと思いました」などの声が寄せられました。

KNITでは、今後も様々な分野で活躍する研究者の交流を図ってまいりますので、研究者のみなさまのお立場から研究環境のダイバーシティ推進に関連して「このような支援があると助かる」というご意見等がございましたら、お気軽にお寄せいただけますと幸いです。

また、12月下旬から、「KNIT共同研究助成」の募集を開始しております。今回のオンラインイベント等で生まれた研究アイデアを育てる機会としてご活用いただけますと幸いです。詳細はKNITのWebサイト（<https://knit.synfoster.hokudai.ac.jp>）もしくは、ダイバーシティ研究環境推進室のWebサイト（<https://reed.synfoster.hokudai.ac.jp>）をご確認ください。

（人材育成本部）



ノボリ型ポスターテンプレート



研究者コミュニケーションサロンの様子

北海道ダイバーシティ研究環境推進ネットワークシンポジウムを開催

12月1日(火)、北海道ダイバーシティ研究環境推進ネットワーク(KNIT)シンポジウム「多様性から編み出すイノベーション」を、オンラインで開催しました。KNITでは、本学を代表機関として道内4大学2企業が連携し、ダイバーシティ推進による科学・産業技術の振興と地域活性化を目指して取り組んでいます。

最初の講演では、総合科学技術・イノベーション会議(CSTI)議員、富士通株式会社理事の梶原ゆみ子氏より、「何のためのD&I?誰のためのD&I?」として、日本の女性参画の現状や、企業の視点からみたD&I(ダイバーシティ&インクルージョン)についてお話いただきました。諸外国と比べた日本の現状や、CSTIで議論されている政策、また富士通での具体的な

取り組みについての詳しいお話に、これからのダイバーシティ&インクルージョンについて認識を新たにしました。

続いて東京都公立大学法人理事吉武博通氏からは「ダイバーシティの視点から大学と社会のこれからを考える」
として、大学組織の構造や認識等の根本的な問題に由来する課題や、大学で必要とされる働き方改革についてお話いただきました。データをもとに、大学での現状、取組例や課題、働き方改革が大学にもたらす効果まで、大変示唆に富んだ内容でした。

初めてのオンライン開催となりましたが、KNIT共同実施機関や協力機関及び全国のダイバーシティ事業に携わる機関、教職員や民間企業の方など約90名の参加申込があり、「なぜ大学で(産学で)ダイバーシティを推進する

必要があるのか?」「組織にとって+研究者にとってどういう意味があるのか?」というような話題について、その社会的背景とともに考え、理解を深め、展望を共有しました。

ダイバーシティ研究環境推進室では、本学の研究環境の一層の充実に向けてさらなる取組を進めてまいりますので、引き続きのご理解とご協力を賜りますと幸いです。

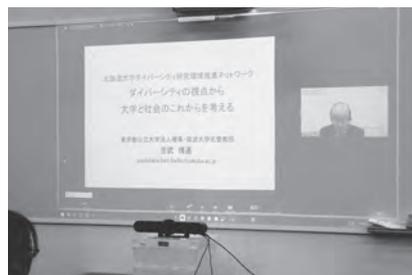
北海道ダイバーシティ研究環境推進ネットワークの活動について興味のある方は、こちらのウェブサイトをご覧ください。

<https://knit.synfoster.hokudai.ac.jp/>

(人材育成本部)



富士通株式会社理事 梶原氏



東京都公立大学法人理事 吉武氏



オンライン配信の様子

■ 部局ニュース

水産科学研究院が東通村と連携協定を締結



協定書を手を持つ越善村長（左）と木村研究院長（右）

水産科学研究院は、青森県東通村との連携のもと、学術・教育・文化及び地域振興に関する各分野において協力し、相互の発展充実を目的とした連携協定を11月26日（木）に締結しました。

当日は、東通村役場にて協定調印式が行われ、木村暢夫研究院長と越善靖夫東通村長が協定書に署名しました。

東通村は、函館市から津軽海峡を挟み対岸である下北半島北東端に位置し、太平洋と津軽海峡の両方に接する自然環境が豊かな村で、水産研究において魅力的な環境が揃っています。ま

た、おしよ丸等練習船の入港可能な港もあります。

平成27年から、本研究院の教員が東通村まち・ひと・しごと創成戦略会議本部有識者会議委員に委嘱されたことをきっかけに、東通村の主力魚種であるサケ・マス並びにスルメイカの漁獲量が落ち込んでいる現状を踏まえ、今後、持続的生産も見据えた新たな漁業形態の確立が必要となっていることから、東通村より本研究院の応援を要請されました。

令和元年から協定締結に向けて交渉

を開始し、研究素材を把握するため、木村研究院長はじめ11名の教員が東通村の水産施設や漁協を訪問する等協議を進め、宿泊施設並びに研究に関する施設の提供等、本学への教育・研究支援体制を含む協定となりました。

本研究院と東通村双方のメリットとなる成果を得られるよう、地元漁協や青森県内の水産施設等と連携し、教育・研究及び地域貢献を推進していきます。

（水産科学院・水産科学研究院・水産学部）

文学研究院FD「ハラスメントの防止等に関する研修」を開催

文学研究院では、「ハラスメント」防止（予防）の知見を得るためのFD研修を11月27日（金）にZoomによるオンライン形式で開催しました。

講師は、本学のハラスメント相談室で実際の業務に当たられている専門相談員で弁護士の上田絵理氏と、臨床心理士の佐藤直弘氏に依頼し、質疑応答を含めて約1時間にわたって、昨今の本学におけるハラスメントの状況（実態）について説明がありました。

内容は、今回副題として「～最悪の

事態を招かないために『教員は何に留意すべきか』、学生（留学生）や関係者（保護者等）に接する際の留意点など～」として、Ⅰ. ハラスメントとは、Ⅱ. 本学におけるハラスメントの定義と具体例、Ⅲ. 本学におけるハラスメント相談対応の流れと状況（実態）、Ⅳ. ハラスメントの予防－学生に接する際の留意点－、の4節に分け、実例を交えた言及がありました。

研修の後に質疑応答の時間が設けられ、今般のコロナ禍における授業での

学生への対応（例えばオンライン授業で学生へ画面に顔を出すよう求めるのはハラスメントになるのかなど）について意見交換が行われました。

今回は研究院内の教職員77名がZoomで参加し、今後取り組むべき方向性の示唆が得られた有意義なFDとなりました。

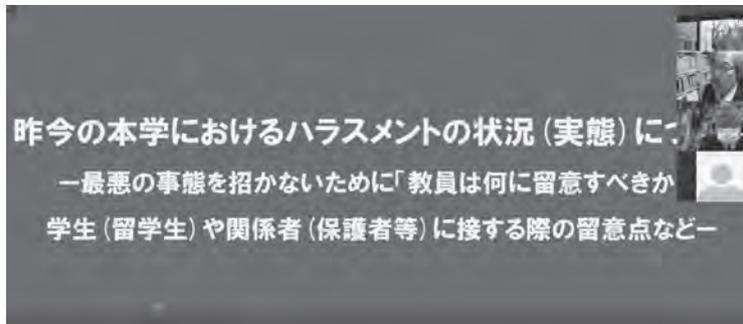
（文学研究院）



進行役の文学研究院学生委員長 谷本晃久教授



講師のハラスメント相談室の先生方



研修はZoomにより資料を写しだして実施

経済学部が札幌国税局長の特別講演会を開催

経済学部では、札幌国税局長の猪野 茂氏による「国の財政を考える－僕らの暮らしも考える?－」と題する特別講演会を12月中旬にオンラインで開催しました。

猪野氏は、国税庁に入庁後、尾鷲税務署長、税務大学校研究部教授、国税庁個人課税課長などを務められ、令和2年より札幌国税局長に就任されました。この間、ハーバードロースクールへの留学、ジョージタウン大学ローセンター客員研究員を経験されました。

講演は、前半では主に税、特に納税について、後半では主にわが国の財政についてお話いただきました。国税庁・国税局の役割の紹介、税の必要性についての説明から始まり、海外のニュースなど興味深い例をあげて、あらためて公共サービスや公共施設の維持・管理のための税の必要性が説かれました。そして、税を納める理論的根拠について、利益説と義務説の内容の

紹介と、それぞれの問題点が説明されました。そこから、国家の維持や活動に必要な経費は「主権者たる国民」が「自ら負担」という考えが示されました。途中、査察の事例として現金や地金の隠し場所のエピソードが紹介され、たいへん驚かされる場面もありました。その後は、税の使い道としてのわが国の歳入と歳出について、税収だけでは歳出が賄えず、国債の発行が増加していること、その主な原因が社会保障費の増加にあることが説明されました。国債の発行は、将来への負担の先送りに過ぎず、人口構造上、現在はおよそ2人の労働者で1人の高齢者を支えているのに対して、学生が高齢者になるころには1.3人で1人を支えるようになるとの警告と共に、学生に対して、選挙権を有する大人として主体的に考えることの大切さが伝えられました。

講演会は、オンデマンド方式で開催

され、経済学部生を中心に、他学部生を含めて、208人の視聴が記録されました。「経済学部生としてももちろん興味深いお話でしたが、1人の国民としてもためになる講義になりました」、「国税局の具体的な仕事内容や、税制の観点から見た日本財政の現状・今後の課題が丁寧に解説されていてわかりやすかった」、「日本の厳しい財政状況がよくわかりました。日本の借金をどのように返していくのか、一人ひとりが考える必要性を感じました」といった声があり、学生は自分のペースでしっかりと猪野氏のメッセージを受け取ることができたようです。

経済学部では、学生が社会問題に関心を抱き、将来を主体的に考えてもらうよい機会になることを期待し、今後も講演会を企画していく予定です。

(経済学研究院・経済学部)



講演する猪野札幌国税局長

地域経済経営ネットワーク研究センターシンポジウム 「環境問題を解決するナッジ政策の可能性」を開催

経済学研究院地域経済経営ネットワーク研究センター（REBN）では、11月27日（金）に、北海道と共催で、シンポジウム「環境問題を解決するナッジ政策の可能性」を開催しました。10回目の節目である今回のシンポジウムは、コロナ禍に対応すべく、はじめてのオンライン開催となりました。

シンポジウムでは、株式会社住環境計画研究所の代表取締役会長である中上英俊氏による講演が行われ、北海道環境生活部環境局気候変動対策課の宇山生朗氏及び経済学研究院の橋本 努教授より、環境問題やナッジに関する自身の取り組みの説明や中上氏の講演へのコメントが述べられました。

中上氏の講演は「暮らしとエネルギ

ーと消費者行動」というテーマで、国内外のエネルギー政策及び企業活動や国民生活など社会の変化を概観した後、北海道をはじめとする地域、日本や海外の具体的な事例をもとに、消費者行動と省エネルギーについて論じられました。同氏の講演では、環境省の委託事業として自身が行った「省CO2診断事業」や「ホームエネルギーレポートによる省エネ効果の実証実験」のデータにもとづきながら、ナッジの手法を用いた省エネアドバイスの効果についても紹介されました。

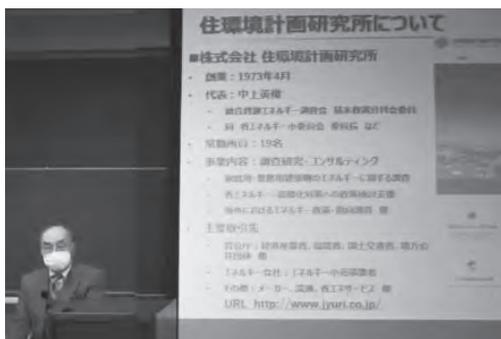
宇山氏からは、気候変動に対する人々の行動変容をどのように促すのかという情報発信デザインに関する取り組みについて、他地域における先進的

な事例も交えながら、具体的な説明がありました。この取り組みでは、様々な関係者によるワークショップを通じて、行動変容のための情報発信をいかに政策に取り入れ、有効に活用していくのが検討されています。

最後に、中上氏の講演内容に対して、宇山氏と橋本教授からのコメントが述べられ、オンライン参加者からもチャット機能を活用して質問が寄せられました。

はじめてのオンライン開催となった今回のシンポジウムには、道外や遠く海外からも含めて100名以上の方々にご参加（視聴）いただきました。

（経済学院・経済学研究院・経済学部）



講演：株式会社住環境計画研究所 中上氏



コメントーター：北海道庁 宇山氏



コメントーター：経済学研究院 橋本教授



司会：経済学研究院 岡田美弥子教授

歯学研究院で「動物供養祭」を挙

歯学研究院では、11月27日（金）、令和2年度動物供養祭を新型コロナウイルス感染防止対策を取りながら執り行いました。本供養祭は、過去1年間に歯学教育・研究のため実験に供された動物（ラット、マウス計1,428体）への感謝と追悼のために毎年実施しており、教職員、学生等の動物実験関係

者約30人が参列しました。

本供養祭では、最初に八若保孝歯学研究院長から挨拶があり、次いで動物実験委員会委員長の船橋 誠教授から、動物実験施設の利用にあたって引き続き新型コロナウイルス感染予防対策を徹底していくことが述べられるとともに、歯学研究の進歩に尊い命を捧

げて下さった多数の実験動物の御霊の安らかなることを願う旨の「祭文（さいもん）」が捧げられ、最後に参列者全員により献花が行われました。

（歯学院・歯学研究院・歯学部）



参列者に挨拶する八若研究院長



「祭文」を読み上げる船橋委員長



献花を行う八若研究院長

令和2年度 薬学部成績優秀賞授与式を挙

薬学部では、12月11日（金）に、令和2年度北海道大学薬学部成績優秀賞授与式を行いました。

この賞は「GPA制度の導入に伴い、学業が優秀な学生を顕彰し、学生の向学心を喚起する」ことを目的として、

平成17年度以降に入学した学部3年次生を対象として設けられたもので、今回で14回目の授与式となります。

今年度は、学部専門科目の成績が特に優秀な4名が受賞者に選ばれました。授与式では、佐藤美洋学部長から表

彰状と記念品が1人ひとりに授与されました。今後この賞が本学部学生の向学心をより一層喚起するものとなることを期待しています。

（薬学研究院・薬学部）



成績優秀者と佐藤学部長（中央）



表彰状を授与される成績優秀者

工学系部局で「こころの健康セミナー」を開催

工学研究院、情報科学研究院、量子集積エレクトロニクス研究センターでは、毎年「こころの健康セミナー」を開催しています。

本年度は、12月18日（金）に「工学系部局なんでも相談室」カウンセラーである石原一人氏（合同会社アド・レジリエンス 職業カウンセラー）を講師としてオンライン講演形式により開催しました。

本セミナーでは『今年度の「なんでも相談室」利用状況から見えてきたこ

と』と題して、新型コロナウイルス感染防止対策として「自粛」が一つのキーワードとなっている状況下で、「なんでも相談室」を利用する学生の相談内容や求める支援に質的变化が見られることから、本年度における「なんでも相談室」利用状況を振り返るとともに、これから起こり得る問題や課題への対処と予防について解説が行われ、参加した19名の教職員はその認識及び理解を深めました。

参加者からは有益であった旨の感想

が多く寄せられ、有意義なセミナーとなりました。

（工学研究院、情報科学研究院、量子集積エレクトロニクス研究センター）



セミナーの様子

令和2年度第1回農学研究院FD研修会を開催

農学研究院では、12月2日（水）、農学部総合研究棟W109及びWebexによるリアルタイム配信で、令和2年度第1回FD研修会を開催しました。西邑隆徳農学研究院長の開会のあいさつ後、「大学におけるメンタルヘルスについて」をテーマに、保健センター、大学院医学研究院精神医学研究室の朝倉 聡准教授による講演会が行われました。お話の導入として、コロナ禍の問題を三つの感染－生物的感染、心理的感染、社会的感染として説明され、長期にわたる感染災害の特殊性の中で、これまで生じていた、そして今後生じる可能性のあるメンタルヘルスの不調や、不調を生じる社会的な背景などについて教授いただきました。

大学におけるメンタルヘルスに関するお話では、冒頭で学生のメンタルヘルスと教職員のメンタルヘルスは互いに関わり合うために両方を守る重要性について強調されていました。そして、メンタルヘルスを維持しやすい環境の提供に必要な人員、システム構築を考える上で精神疾患の疫学として、本学の学生約18000人の10%、年間1800人が罹患している可能性などが紹介されました。その心の病気の予防に

ついて一次、二次、三次予防に分けて教授いただきました。その中で、学生が相談に来たら批判・アドバイスはせずに傾聴することの重要性や、専門家の支援の前に提供すべき支援としてメンタル・ファースト・エイド、特に自傷・他害の恐れのある人の生命保護についての説明がありました。自殺に至る方の多くが精神疾患を発症していることから精神疾患への対応が大事であること、自殺の相談をされたら、まずは死なないことを約束してもらい、医療が必要なこと、精神疾患は珍しくないことなどを伝え、適切に専門家への橋渡しをすること（本学では保健センター、緊急時には大学病院精神科神経科）などのアドバイスがありました。うつ病、統合失調症、自閉スペクトラム症などについてもお話があり、最後に、メンタルヘルス不調を生じやすい人・環境について説明いただき、その対処・改善法について教授いただきました。質疑応答で、SNSなどコミュニケーション法の変革で急速なストレスにさらされる学生に如何に対応すべきか、学生のSOSに対する本学の体制についてなど教職員側からの質問への回答もいただきました。

参加した教員50名（うちオンライン45名）事務職員5名、学生7名が今回の講演会を通じて得た大学におけるメンタルヘルスの知識やスキルは、今後の学生とのつながりや職場環境の改善において貴重なものになると思います。ご講演いただいた朝倉准教授には、この場を借りて改めてお礼申し上げます。

（農学院・農学研究院・農学部）



西邑農学研究院長による開会のあいさつ



朝倉准教授の講演の様子

北海道大学病院で夜間想定防火訓練を実施

北海道大学病院では、夜間を想定した防火訓練として、机上訓練を公益財団法人札幌市防災協会の指導のもと11月20日（金）に行い、実動訓練を11月27日（金）に実施しました。

今回の訓練は、8階西側病棟の給湯室から出火したことを想定し、参加した医師、看護師らは真剣な面持ちで、通報連絡、初期消火及び模擬患者の避難誘導の訓練に取り組みました。

病院は常に患者さんの安全を守る立場にあることから、訓練の重要性を再確認する機会となりました。

（北海道大学病院）



机上訓練の様子



実動訓練の様子

保健科学研究院公開講座「ようこそ！ヘルスサイエンスの世界へ」を開催

保健科学研究院では、「ようこそ！ヘルスサイエンスの世界へ」というテーマのもと公開講座を開催しており、今年も3名の講師陣が各々専門とする研究を紹介し、71名の参加がありました。今年も、新型コロナウイルス感染症対策として、対面形式での実施ではなく、オンライン形式での開催とさせていただきます。

これにより、全道の高校へ周知したことや遠方の方も参加できるようになったため、例年よりも幅広い年齢層の方にご参加いただき、盛会のうちに終えることができました。

はじめに、岡田一範講師が「超音波でみる動脈硬化と心疾患」と題して、動脈硬化がどのように起こり、心疾患へと至るのかを実際の超音波検査の画像をもとに講演しました。

続いて、蝦名康彦教授が「リプロダクティブ・ヘルスを科学する！」と題して、女性ホルモンが女性の身体にどのような影響を与えるのか、また、不妊治療の現状について、最新の知見をもとに講演しました。

最後に、横澤宏一教授が「脳の機能を測る－認知脳科学への招待－」と題して、認知科学とは何か、そして、脳

の機能や構造について錯視などの実例を用いつつ、最後は、認知症との関連性を交えながら講演しました。

参加者の皆様からは大変好評で、様々な質問があり、各講師はわかりやすく丁寧に解説を行いました。

今後も毎年、その時代を反映するようなテーマや、興味を持って参加いただけるようなテーマを設定して、公開講座を開催していく予定です。

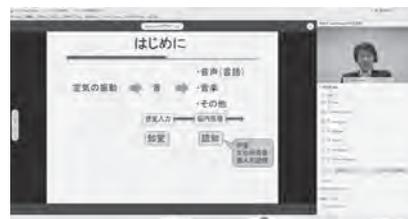
（保健科学研究院）



岡田講師による講演の様子



蝦名教授による講演の様子



横澤教授による講演の様子

■ 博士学位記授与

12月25日（金）に本学大学院研究科等の所定の課程を修了した課程博士は37人、及び本学に学位論文を提出してその審査、試験等に合格した論文博士は4人でした。なお、被授与者の氏名と論文題目等は次のとおりです。

(学務部学務企画課)

課程博士

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者		博 士 論 文 名		
	氏 名				
博士（文学）	し 清	みず 水	こう 香	き 基	日本人の宗教意識の諸相と主観的ウェルビーイング：計量的データ分析と検討 主査：教授 櫻井 義秀
博士（法学）	ない 内	とう 藤	あきら 陽		オットー・マイヤーの『法律の支配』論についての研究 主査：教授 西村 裕一
博士（水産科学）	ガオ 高	ウェイ 偉	フォン 峰		キアンコウ <i>Lophius litulon</i> の初期生活史に関する研究 主査：教授 綿貫 豊
	エ EKO コ	ス ス	サ サ	ント ント	SUSANTO STUDY ON SEAWEED CHLOROPHYLLS AND LIPIDS : DISTRIBUTION, BIOAVAILABILITY, AND FUNCTIONALITY (海藻のクロロフィルと脂質に関する研究：分布、生体利用および機能性) 主査：教授 岸村 栄毅
博士（理学）	おか 岡	もと 本	まもる 守		On a mathematical treatment of a particle-reaction-diffusion model (ある粒子反応拡散系モデルの数学的取り扱いについて) 主査：教授 長山 雅晴
	オルヤン Ørjan Sele	セレ Handegård			Covalent and Semicovalent Non-Metal Plasmonic Materials for Interfacial Photo-Energy Conversion (赤外エネルギー変換を志向した共有結合性・半共有結合性非金属プラズモン材料の研究) 主査：客員教授 長尾 忠昭
	ノ NGO HAI	ハ DANG	イ DANG		Growth of Highly-conductive Ceramic Films Based on Boride and Oxide for Photo-Energy Applications (光エネルギー利用のためのホウ化物および酸化物を基軸とした高伝導性セラミック膜の研究) 主査：客員教授 長尾 忠昭
	おお 大	や 矢	ゆう 佑	き 基	Taxonomy and Phylogeny of Acotylea (Platyhelminthes: Polycladida) from Japan (日本産無吸盤亜目ヒラムシ類（扁形動物門：多岐腸目）の系統分類学的研究) 主査：准教授 柁原 宏
博士（農学）	ワン 王	ホン 鴻	チェン 誠		乾塩漬食肉製品における亜鉛プロトポルフィリンIX形成機構に関する研究－形成経路と水溶性ZnPP複合体の解明－ 主査：准教授 若松 純一
	こ 小	ぼり 堀	あゆみ あゆみ		タマネギ灰色腐敗病の病原菌と防除に関する研究 主査：教授 近藤 則夫
博士（生命科学）	し 清	みず 水	ゆ 由	う 宇	Pathological mechanisms in Crohn's disease via dysbiosis triggered by Paneth cell α -defensin misfolding (Paneth細胞 α -defensinのmisfoldingに起因するdysbiosisを介したクローン病の病態形成メカニズム) 主査：教授 綾部 時芳
	シャリフル SHARIFUL	ハク HAQUE			Driving the Photochemical Reaction Cycle of Proteorhodopsin and Bacteriorhodopsin Analogues by Photoisomerization of Azo Chromophores (アゾベンゼンクロモフォアによるプロテオロドプシンとバクテリオロドプシンアナログのフォトサイクルの駆動) 主査：教授 玉置 信之

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者		博 士 論 文 名
	氏 名		
博士（生命科学）	ディーパック DEEPAK ハディヤ H ヴィルバクシャ V		Dual inhibitors of amyloid beta aggregation and sphingomyelin synthase from natural resources (アミロイドβ凝集とスフィンゴミエリン合成酵素の二重阻害を示す天然資源化合物に関する研究) 主査：教授 門出 健次
	ユー 余 チヨン 承 タオ 涛		Water Diffusion-Governed Thermal History of Self-Healing Hydrogels and Their Applications for Dynamic Materials (水拡散によって支配される自己修復ハイドロゲルの熱履歴現象とその動的材料への応用) 主査：教授 龔 劍萍
	よこ 横 い 井 やす 康 ひろ 広		Study on Conformational Characteristics of Human NOTCH1 EGF Domains Induced by Dynamic O-glycosylation (動的な糖鎖修飾が誘起するヒトNOTCH1レセプターEGF様ドメインの立体構造特性に関する研究) 主査：教授 西村 紳一郎
博士（工学）	こ 小 ばやし 林 ふみ 史 あき 明		液晶の電場誘起乱流による負の粘性 主査：教授 折原 宏
	シティ SITI ヒダヤツル HIDAYATUL アクマルビンティ AQMAR BINTI ザカリヤ ZAKARIA		Bio-functional Coating on Selective Laser Melting Manufactured Porous Ti6Al4V Scaffolds Produced by Using Plasma Electrolytic Oxidation (選択的レーザー溶融製造多孔質Ti6Al4Vスキャフォールドのプラズマ電解酸化による生体機能コーティング) 主査：教授 東藤 正浩
	き 城 と 戸 だい 大 き 貴		Constrained Thorough Search法による複雑な系におけるEXAFS解析の研究 主査：教授 朝倉 清高
	グエン NGUYEN BINH タン THANH		Effect evaluation of grass on shallow slope stability of unsaturated volcanic soil in seasonal cold region (積雪寒冷地の不飽和火山灰質土斜面表層の安定性に及ぼす植生の影響評価) 主査：教授 石川 達也
	ジュ 朱 ユ 玉 ロン 龍		Wide-area geohazard risk assessment in snowy-cold regions by multiphase soil mechanics and multi-scale analysis (高緯度寒冷地域の広域地盤災害リスク評価手法に関する研究) 主査：教授 石川 達也
	た 峪 りゅう 龍 いち 一		移動時間の不確実性を考慮したネットワークレベルにおける道路政策分析手法の開発 主査：教授 内田 賢悦
	ティラナイ Teeranai シリマハシヨッタ Srimahachota		Performance recovery of rebar-corroded reinforced concrete beams repaired by cement mortar mixed with recycled nylon fibers from used fishing nets (廃棄漁網からのリサイクルナイロン繊維を混入したモルタル補修材料による鉄筋腐食コンクリートはりの性能回復効果) 主査：特任教授 横田 弘
	パウカエヴァ Paukaeva A. アナスタシア Anastasiia		Public Open Space Design based on People's Perception using Social Media in Winter Cities (ソーシャルメディアによる空間認識に基づく北方都市のオープンスペースデザイン) 主査：教授 瀬戸口 剛
	ファラ Farah Elida ビンティ Binti Selamat セラマツト		Health risks due to road traffic noise: Mapping health effects for risk communication and mitigation of the risks by shifting to electric vehicles (道路交通騒音による健康リスク: リスクコミュニケーションのための健康リスクマップ作成および電気自動車への移行による健康リスクの低減) 主査：教授 松井 利仁
博士（理学）	ナン 南 タ 多 ヤン 娟		Functional Characterization of Heme Binding in DNA Binding Proteins (DNA結合タンパク質におけるヘム結合の機能解析) 主査：教授 村上 洋太

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者	博士論文名
	氏名	
博士（経営学）	寺内伊久郎	組織的共同研究における大学と企業の関係構築プロセス 主査：教授 岩田 智
	築部卓郎	認知的徒弟制と心臓外科医の熟達プロセスに関する研究 主査：教授 平本 健太
博士（医学）	石黒友唯	胃癌患者における上皮間葉転換と周術期動態に注目した循環腫瘍細胞の臨床的意義に関する研究 (Study on clinical significance of circulating tumor cells focusing on epithelial mesenchymal transition and perioperative kinetics in patients with gastric cancer) 主査：教授 平野 聡
	釜場大介	椎間板障害に対する細胞治療法の開発 (Development of cell therapy to treat intervertebral disc disorders) 主査：教授 近藤 英司
	大塚耕右	脳磁図所見に基づく MRI 所見の再検討 (Reinterpretation of magnetic resonance imaging under the guidance of magnetoencephalography) 主査：教授 渡邊 雅彦
	尾形裕介	補体関連自己免疫疾患におけるレクチン経路の関与および長期予後に関する研究 (Association of the lectin complement pathway and characterization of patients with poor long-term prognosis in complement related autoimmune disease) 主査：准教授 北村 秀光
	佐藤公治	Fitzgerald分類に基づく腹部大動脈瘤破裂の治療戦略 (Treatment Strategy for Ruptured Abdominal Aortic Aneurysm Based on Fitzgerald Classification) 主査：教授 本間 明宏
	杉本聡	左室形成術後の左室再拡大におけるオートファジーの意義 (Impact of autophagy on left ventricular remodeling after left ventriculoplasty) 主査：教授 安斉 俊久
	高橋秀徳	肝癌細胞株における浸潤能変化に伴うN型糖鎖変異に関する研究 (Analysis of alterations in N-glycans associated with invasive change in liver cancer cell lines) 主査：准教授 七戸 俊明
	古川聖太郎	通常型膵癌の浸潤、転移メカニズムに関する分子生物学的研究 (The molecular biological studies on the mechanisms of invasion and metastasis of pancreatic ductal adenocarcinoma) 主査：教授 武富 紹信
博士（獣医学）	オチバヤル Ochbayar エルデンスラッハ ERDEMSURAKH	Pathological and epidemiological studies on equine glanders in Mongolia (モンゴル国における馬鼻疽の病理学および疫学的研究) 主査：教授 木村 享史
博士（工学）	ミヤツ ス アウン Myat Hsu Aung	A Study on Wi-Fi-Based Indoor Positioning System Using Fingerprint Database Constructed with Estimated Reference Locations (推定参照位置に基づくフィンガープリントデータベースを用いたWi-Fi室内位置推定システムに関する研究) 主査：准教授 筒井 弘

論文博士

博士の専攻分野の名称	博士の学位を授与された者	博 士 論 文 名
	氏 名	
博士（環境科学）	おお き かい へい 大 木 海 平	Microbial ecology of human gut bifidobacteria and lactobacilli: their taxonomy and behavior (ヒト腸内 <i>Bifidobacterium</i> 属および <i>Lactobacillus</i> 属細菌の微生物生態学：その分類と挙動) 主査：教授 森川 正章
博士（生命科学）	いし はら すみれ 石 原 すみれ	Study on three-dimensional deformation of epithelial sheets in lumen and dome morphogenesis with <i>in vitro</i> cell culture model (インビトロ細胞培養実験系を用いた管腔形成及びドーム形成における上皮細胞シートの三次元変形に関する研究) 主査：教授 芳賀 永
博士（工学）	はま き みち ひろ 濱 木 道 大	河川の流砂トレーサーモデルによる土砂還元の評価技術について 主査：教授 清水 康行
博士（医学）	す やま さとし 須 山 さとし	就学前児童の発達性協調運動障害の危険因子に関する研究 (Studies on risk factors for developmental coordination disorder in preschool-age children) 主査：教授 久住 一郎

■ 諸会議の開催状況

役員会（令和2年12月7日）

- 議案・特任教員等の基本年俸の見直しについて
- ・令和2年度財政状況及び第3期中期目標期間の財源見直し
 - ・施設整備に係る財源確保の方向性について

協議事項・重要な財産を譲渡する計画について

- 報告事項・大学、大学院、短期大学及び高等専門学校を設置等に係る認可の基準の一部を改正する告示の施行について
- ・気候変動に関する国際大学連盟「International Universities Climate Alliance」による提言への参画について

教育研究評議会（令和2年12月16日）

- 報告事項・未来戦略本部部会の設置及び体制について
- ・気候変動に関する国際大学連盟「International Universities Climate Alliance」による提言への参画について
 - ・施設整備に係る財源確保の方向性について
 - ・工学部資源棟新営工事に係る土壌汚染対策法への対応等について（経過報告）
 - ・第4期中期目標期間に向けた総長方針

教育研究評議会（令和2年12月21日）

- 議題・教員の懲戒について
- ・総長選考会議委員の選出について

役員会（令和2年12月24日）

- 議案・令和2年度教育研究総長表彰について
- ・令和2年度教育研究支援業務総長表彰（貢献賞）について
 - ・令和4年度概算要求の基本方針について
 - ・職員給与規程等の一部改正について

報告事項・会計検査院による会計実地検査の結果について

※規程の制定、改廃については、「学内規程」欄に掲載しています。

■ 学内規程

北海道大学現代日本学プログラム課程規程の一部を改正する規程

（令和2年12月8日海大達第156号）

現代日本学プログラム課程のより柔軟な運営及び体制強化のため、プログラム副課程長の配置を見直すことに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

北海道大学新渡戸カレッジ規程の一部を改正する規程

（令和2年12月8日海大達第157号）

本学新渡戸カレッジにおいて、オナーズプログラム学部教育コースの現代日本学プログラム課程学生に係る修了要件及び称号授与基準を見直すことに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

国立大学法人北海道大学政府調達規程の一部を改正する規程

（令和2年12月18日海大達第158号）

令和3年1月1日付けで「包括的な経済上の連携に関する日本国とグレートブリテン及び北アイルランド連合王国との間の協定」（日英包括的経済連携協定）が発効することに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

国立大学法人北海道大学創成研究機構グローバルファシリティセンター分析・加工受託規程の一部を改正する規程

（令和3年1月1日海大達第1号）

創成研究機構グローバルファシリティセンターにおいて、材料分析又は加工に使用する設備の登録及び取消を行うことに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

国立大学法人北海道大学契約職員就業規則の一部を改正する規則

(令和3年1月1日海大達第2号)

国立大学法人北海道大学特任教員就業規則の一部を改正する規則

(令和3年1月1日海大達第4号)

国立大学法人北海道大学職員給与規程の一部改正に伴い、当該規程の適用を受ける職員との均衡等を考慮し、期末手当の支給割合を見直すことに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学子どもの園保育園臨時職員就業規則の一部を改正する規則

(令和3年1月1日海大達第3号)

国立大学法人北海道大学子どもの園保育園職員給与規程の一部改正に伴い、当該規程の適用を受ける職員との均衡等を考慮し、期末手当の支給割合を見直すことに伴い、所要の改正を行ったものです。

国立大学法人北海道大学職員給与規程の一部を改正する規程

(令和3年1月1日海大達第5号)

国立大学法人法第35条の規定により準用される独立行政法人通則法第50条の10第3項の規定を踏まえ、職員の給与について、国家公務員の給与等、民間企業の従業員の給与等、本学の業務の実績並びに職員の職務の特性及び雇用形態その他の事情を考慮し、国民の理解が得られる適正なものとするため、期末手当の支給割合を見直すことに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

国立大学法人北海道大学子どもの園保育園職員給与規程の一部を改正する規程

(令和3年1月1日海大達第6号)

札幌市から認可保育園に対して交付される補助金における人件費の算定については、国家公務員の給与を参考として算定されていることから、当該補助金の額を考慮しつつ、職員の給与について社会一般の情勢に適合したものとし、かつ、国家公務員の給与等、民間企業の従業員の給与等、本学の業務の実績並びに職員の職務の特性及び雇用形態その他の事情を考慮し、国民の理解が得られる適正な給与水準とするため、期末手当の支給割合を見直すことに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

国立大学法人北海道大学オープンファシリティ使用規程の一部を改正する規程

(令和3年1月1日海大達第7号)

本学のオープンファシリティについて、設備の登録及び取消を行うことに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

北海道大学大学院獣医学研究院附属動物病院規程の一部を改正する規程

(令和3年1月1日海大達第8号)

麻酔関連業務増加への対応及び診療支援体制の強化のため、令和3年1月1日付けで、大学院獣医学研究院附属動物病院の組織を拡充することに伴い、所要の改正を行うとともに、併せて規定の整備を行ったものです。

北海道大学大学文書館公文書室利用等規程の一部を改正する規程

(令和3年1月1日海大達第9号)

令和3年1月1日付け「特定歴史公文書等の保存、利用及び廃棄に関するガイドライン」（平成23年4月1日内閣総理大臣決定）の一部改正に伴い、公文書室が利用請求者等に対し行う通知の方法を改めることに伴い、所要の改正を行ったものです。

■表敬訪問

海外

年月日	来訪者	来訪目的
2.12.16	在札幌米国総領事館 Andrew Lee 総領事	両国の交流に関する懇談（オンライン）
2.12.17	駐札幌大韓民国総領事館 Bae Byeong-soo 総領事	両国の交流に関する懇談
2.12.25	在ザンビア日本国大使館 水内 龍太 特命全権大使	両国の交流に関する懇談（オンライン）



Andrew Lee 在札幌米国総領事（左）



Bae Byeong-soo 駐札幌大韓民国総領事（中央右）



水内 龍太 在ザンビア日本国特命全権大使（左）

（国際部国際連携課）

■人事

令和2年12月15日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【部局長・施設長等】 大学院法学研究科長 法学部長 (期間：令和4年12月14日まで)	小名木 明 宏	大学院法学研究科教授
【副研究科長・副研究院長等】 大学院法学研究科副研究科長 (期間：令和4年12月14日まで)	尾 崎 一 郎	大学院法学研究科附属高等法政教育研究センター教授
【教育研究評議会評議員】 (期間：令和4年12月14日まで)	尾 崎 一 郎	大学院法学研究科附属高等法政教育研究センター教授

令和2年12月31日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【教授】 (辞職)	山 下 啓 子	北海道大学病院教授

令和3年1月1日付発令

新 職 名 (発令事項)	氏 名	旧 職 名 (現職名)
【教授】 大学院農学研究院教授 大学院医学研究院教授 大学院医学研究院教授 大学院情報科学研究院教授	橋 本 誠 氏 家 英 之 藤 村 幹 田 中 孝 之	大学院農学研究院准教授 北海道大学病院講師 (採用) 大学院情報科学研究院准教授

新任部局長等紹介

令和2年12月15日付

法学研究科長・法学部長に



お な き あきひろ
小名木 明宏 教授

令和2年12月14日限りで池田清治法学研究科長・法学部長が任期満了となり、その後任として小名木明宏教授が発令されました。

任期は、令和4年12月14日までです。

略 歴

昭和37年4月5日
昭和60年3月 慶應義塾大学法学部卒業
昭和63年3月 慶應義塾大学大学院法学研究科修了
平成5年2月 法学博士（ドイツ連邦共和国ケルン大学）
平成5年3月 ドイツ連邦共和国ケルン大学法学部卒業
平成7年8月 慶應義塾大学大学院法学研究科後期博士課程退学
平成7年9月 熊本大学法学部助教授
平成15年10月 北海道大学大学院法学研究科教授
平成26年4月 } 北海道大学大学院法学研究科副研究科長
平成28年3月 }
平成30年12月 } 北海道大学大学院法学研究科副研究科長
令和2年12月 } 北海道大学教育研究評議会評議員

新任教授紹介

令和3年1月1日付



農学研究院教授に

橋本 誠 氏

 基盤研究部門
生態化学生物学分野

生年月日

昭和41年 6月18日

最終学歴

 北海道大学大学院薬学研究科博士後期課程修了（平成7年3月）
博士（薬学）（北海道大学）

専門分野

化学生物学, 生物有機化学, 有機化学, 生態化学



医学研究院教授に

氏家 英之 氏

 感覚器病学分野
皮膚科学教室

生年月日

昭和53年 1月

最終学歴

 北海道大学大学院医学研究科博士課程修了（平成22年3月）
博士（医学）（北海道大学）

専門分野

皮膚科学, 皮膚免疫学, 皮膚アレルギー学



医学研究院教授に

藤村 幹 氏

 神経病態学分野
脳神経外科学教室

生年月日

昭和44年 3月18日

最終学歴

 東北大学大学院医学系研究科博士課程修了（平成12年3月）
医学博士（東北大学）

専門分野

脳神経外科学, 脳卒中学



情報科学研究院教授に

田中 孝之 氏

 システム情報科学部門
システム創成学分野

生年月日

昭和46年 6月18日

最終学歴

 電気通信大学大学院電気通信学研究科機械制御工学専攻
博士前期課程修了（平成8年3月）
博士（工学）（電気通信大学）

専門分野

ウェアラブルロボット・センサ,
軽労化アシスト技術, フィールドロボット

訃報

なかね ふみお
名誉教授 中根 文雄 氏
(享年93歳)



名誉教授 中根 文雄先生が令和2年11月22日(日)に逝去されました。

先生は昭和26年3月に北海道大学医学部をご卒業され、同附属病院で1年間の実地修練を修了して医師免許を取得されました。その後、基礎医学である解剖学の道に進まれ、昭和27年6月札幌医科大学解剖学教室助手に採用されました。昭和31年4月には北海道大学医学部解剖学第二講座に異動、医学

教育と研究に従事し、昭和31年10月に「猫の脳硬膜動脈の形態学的研究」で医学博士の学位を授与されました。昭和42年6月、歯学部創設に伴い、歯学部歯科保存学第一講座に配置換えとなり、昭和43年4月教授に昇任、口腔解剖学第一講座を担当されました。以来、先生は定年により退官されるまでの23年にわたり、歯学教育・研究に携わり、平成3年4月に北海道大学名誉教授の称号を付与されました。

医学部在籍時には脳頭蓋の比較解剖学、脳溝の比較形態学的研究、ヒト脳の深部動脈の形態学的研究などを行ってこられました。歯学部へ転任後は、歯牙の比較解剖学的研究を中心に顔面頭蓋の形態学的研究を続け、頭蓋骨と頭部動脈の関係に関する優れた研究業績を残されました。また、研究室における後進の指導にも熱心に取り組みられ、多くの優秀な人材を育成されました。

教育面では、解剖学教育上最も重要な解剖学実習の充実に努め、歯科医学生のための実習書を完成させるとともに、ご献体関連業務に関して特別な配慮を行いました。献体団体である白菊会北海道大学支部世話人として、創設以来医学部解剖学担当講座とともにその運営、維持に当たり、受け入れ体制や近代的な遺体保存設備の整備に尽力されました。

歯学部内では、創設時建築委員長として歯学部研究棟・附属病院の新築計画に参画し、主導的な役割を果たされました。また学内では、評議員をはじめ、大学院委員、国際交流委員等を担当され、北大納骨堂の移転に当たっては実行委員としてご活躍されました。

ここに謹んで心よりご冥福をお祈り申し上げます。

(歯学院・歯学研究院・歯学部)

すぎはら つねき
名誉教授 杉原 平樹 氏
(享年79歳)



名誉教授 杉原平樹先生が令和2年12月11日(金)にご逝去されました。

先生は、昭和16年4月6日に北海道に生まれ、昭和42年に北海道大学医学部医学科を卒業し、昭和54年北海道大学医学部形成外科講師、昭和60年同助教授を経て、平成7年同教授に就任されました。その後、教育・研究・診療に努め、平成17年3月定年退職、同年本学より名誉教授の称号を授与されました。

先生の形成外科研修は、ニュージーランド国立ミドルモア病院及び米国アラバマ州立大学病院にて行われ、広く世界的視野を得られました。診療・臨床研究では、頭蓋顎顔面外科において、歯学部矯正科、補綴科と協同したチームアプローチを推進され、唇顎口蓋裂症に対するチーム医療及び頭蓋顎顔面骨延長術の確立に努め、多大なる成果を挙げられました。さらに、皮膚悪性腫瘍に対する集学的治療に力を入れ、腫瘍外科学そして抗癌・免疫強化薬を用いた化学療法に関する臨床研究を行い、その治療成績の飛躍的な向上に尽力されました。基礎研究では、生体皮膚伸展性に関する研究、悪性黒色腫の増殖転移に関する遺伝子解析等において、臨床治療に寄与する研究体系の確立に邁進されました。これらの業績に対し、平成15年には、北海道医師会賞、北海道知事賞が授与されました。

学内では、平成15年4月から北海道

大学医学部附属病院長、同年10月からは名称変更した北海道大学病院の初代病院長を務め、本院の管理・運営に大いに貢献されました。本院正面玄関に飾られています“北海道大学病院”の表札は、先生の揮毫によるものです。

学外では、日本頭蓋顎顔面外科学会、日本皮膚悪性腫瘍学会等の理事を歴任され、日本形成外科学会では理事長(平成17年~19年)を務められました。その間、日本頭蓋顎顔面外科学会(平成10年)、日本形成外科学会(平成13年)、日韓国際形成外科学会(平成16年)の学術集会・国際会議を主宰されました。

先生の長年にわたるご功績に敬意を表し、ここに心より哀悼の意を捧げます。

(北海道大学病院)

編集メモ

- 寶金清博総長 特設サイトがオープンしました。
特設サイトでは、寶金総長によるコンセプトメッセージ動画のほか、総長が日常や大学の「今」「課題」について語る総長コラム「北光一闪」をご用意しています。ぜひご覧ください。
- 大学入試センター試験の後継となる初めての大学入学共通テストが1月16日（土）、1月17日（日）の2日間にわたって行われました。本学を会場として行われた試験では、大きなトラブルもなく無事終了しました。受験者数などの詳細記事は2月号に掲載予定です。

<https://www.hokudai.ac.jp/president/index.html>



総長コラム「北光一闪」を公開中



大学入学共通テスト初日1月16日（土）朝の正門の様子

裏表紙メモ

北海道大学のキャンパスの風景を様々な角度からご紹介する「キャンパス風景」。

1月号は本学の「隠れた冬の風物詩」。小さなスノーブーツの足跡を辿ると学内各所で様々な姿かたちをした雪だるま達に会うことができます。2021年記念すべき第1号の雪だるまは、キリリと凛々しい顔で中央ローンのおしゃべりカラスを見張っていました。

キャンパス風景 10 中央ローン（北8条西6丁目付近）



北大時報 ① No.802 令和3年1月発行

北海道大学総務企画部広報課 〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目

TEL：(011) 706-2162 / FAX：(011) 706-2092 / E-mail：kouhou@jimuhokudai.ac.jp

北大時報はインターネットでもご覧いただけます。 <https://www.hokudai.ac.jp/pr/publications/jihou.html>